

平成 24 年 5 月 6 日

お財布プロジェクト第 3 回実施報告

株式会社 危機管理教育研究所

全国の皆様

この度は、「東日本大震災」被災地への義援金をお寄せいただきまして誠にありがとうございました。第 1 回と第 2 回のお財布プロジェクトでは、これまでにお預かりいたしました義援金を「震災遺児を支援するためのお財布プロジェクト義援金」として、陸前高田市の震災遺児にお届けして参りました。しかしここまでのお財布プロジェクトでお預かりしているお財布をお届けし切れなかったことを受けまして、この度は範囲を拡大し震災遺児に限定せず一世帯一つということでお届けして参りましたことを報告いたします。ご支援ご協力賜りました皆様に対し、心より感謝申し上げます。

プロジェクト名：

「がんばっぺ！お財布プロジェクト

By 危機管理教育研究所と仲間たち」

実施日：

平成 24 年 5 月 3 日(木) 10 時～16 時 モビリア センターハウス

平成 24 年 5 月 4 日(金) 10 時～16 時 モビリア センターハウス

平成 24 年 5 月 5 日(土) 陸前高田市、大船渡市の各イベント会場、施設

概要：危機管理教育研究所の HP で募集し全国の皆様から集まったお財布と義援金（2 千円）を陸前高田市に住まわれる方々に一世帯一つずつ 2000 円札入りのお財布を贈呈しました。また、平行して子供達の勉強の補助や遊び相手、大人の方へはマッサージも行いました。それ以外にも同時にカレー・うどんの無料配布、心肺蘇生法の講習会を実施いたしました。

スタッフ人数：

17 名（女性 1 名、男性 16 名）

お届け数：

5 月 3 日 お財布 89 個 （金額 178,000 円）

5 月 4 日 お財布 2 個 （金額 4,000 円）

《5月3日の様子》

この日は普段仮設住宅にお住まいの方の集会所として使われているスペースの一角をお借りしてのお財布プロジェクトとなりました。お財布の残りの量との兼ね合いから財布を贈呈させていただく対象を一世帯に一財布としてプロジェクトを行いました。

事前に現地のサポートスタッフの方に10時からということで広報していただいた甲斐あり10時になると多くの方が財布の受け取りに続々といらっしゃいました。朝から大雨ということで悪天候の中での活動となりましたが、その天候の影響でGW中の予定をキャンセルする方も多く聞きました。その結果、予想していたよりも多くの方が受け取りに来てくださり、悪天候が功を奏するという形になりました。

今回のお財布プロジェクトで今までと大きく異なったのが年齢層でした。今までと異なり受け取りにいらっしゃる方が大人の方が中心となりました。どれも質の大変良いお財布ということで、今までのプロジェクトでの子供達以上の熱い視線が並べられた財布に向けられていたように感じました。

また、2000円札という珍しい紙幣であったことから、それに驚く方、2000円札にまつわる思い出を語っていらした方が多くいらっしゃいました。深い思い出のあった2000円札やお財布が流されてしまったというお話を伺っていると改めてそういった思い出の品を失った方々のお気持ちが忍ばれ胸が締め付けられる思いでした。そういった思い出の品は取り返すことはできませんが、その代わりにならずとも今回全国の皆様からお預かりした新たなお財布や2000円札が少しでもお役に立てることを祈ります。



←財布を選んでいる様子

↓救命講習と無償提供のうどんを食べながら皆様に楽しく語られている様子



《5月4日の様子》

この日は予定では漁に使用する筏作りのお手伝いをするということになっていました。しかし前日に引き続きあいにくの雨模様となった為筏作りは中止となってしまいました。そこで急遽活動内容を組み直し、筏作りに代わり、引き続きお財布プロジェクトの受付と子供達の学習補助、年配の方対象にマッサージを行いました。

前日と同じく10時から開始し、最終的に、10名程の子供達が集まりました。国語・算数を中心に補講を行いました。どの子も一度学校に行けなくなったという経験から非常に学習意欲が高く、国語・算数の問題を自主的に取り組み、すらすらと解いていく姿は印象的でした。

昼過ぎになると前日から降り続いていた雨が上がりました。すると子供達から外で遊びたいとの要求があったので、大学生スタッフが外へ引き連れて鬼ごっこをスタートしました。始めは手を抜いてしまっていた大学生スタッフも子供達からの“本気で遊んでよ”との叱咤激励を受け、最終的には子供達と同じく大学生達も泥まみれになる程に全力で遊んでいました。よく見ると子供達よりも大学生スタッフの方が楽しんでいるように見えたような？実は活動初日から他の女の子の輪に入れず一人絵を描いている女の子がいました。この日も最初は一人で絵を描いていたのですがこの全力の遊びを通して、気づくと女の子の輪に入ってそこまで見せなかった笑顔を見せてくれていました。こういった子供達の架け橋になれた活動ということで有意義なものとなったかと思えます。



《絵本読み聞かせと算数の学習補助》

《5月5日の様子》

この日は現地の大船渡市にこここ浜っ子クラブの元へ抗菌消臭剤等の支援物資を届けてまいりました。ここまでの道のりで子供の日ということもあり様々なところでイベントが行われているのが見受けられました。各地から美大を中心とした大学生がスタッフとして駆けつけてきているようでした。装飾の準備中だったので私たちも微力ながらもお手伝いさせて頂きました。



《大船渡市にこここ浜っ子クラブの方(写真右から2番目)と》

《イベントの準備のお手伝い》



《終わりに》

今回印象的だったのが保護者の方が普段お仕事で忙しいということで寂しそうにしている子や、やることがないから仕方ないから漫画を読んでいるという子達の姿でした。今後保護者は生活再建を目指していく中で今まで以上に家族と過ごす時間というものが限られてきます。そうなるにより子供を対象とした活動というものが必要になってきます。そのような中で学童保育も整備されていない現地の子供達を思うと何らかのプログラムを組んで援助していこうと思いました。今までのお財布プロジェクトを引き続き行っていくのは勿論、平行してそういった子供達へのプログラム、例えば夏休みに勉強の補助であるとか遊び相手になるというようなものを組んでいけたらと思っております。

今後もこのような形でお財布プロジェクト、子供達のサポートを取り組んで行こうと思っておりますので、息の長い支援をどうかよろしく願いいたします。